



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 41

2009.6.3 (No.2548)

第2560地区ガバナー／馬場 信彦
 会 長／中村 和彦
 会長エレクト／菊池 渉 (クラブ奉仕A)
 副 会 長／樺山 仁 (クラブ奉仕B)
 幹 事／石月 良典
 S A A／明田川賢一
 会 計／杉山 幸英

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (～はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:58名中39名
 ■先々週出席率:80.69%

【ビジター】

・台湾 土城RC
 洪 俊 傑 さん

【先週のメイクアップ】

【5.29】吉田RCへ

・石橋育於さん、西川文夫さん
 ・渡邊喜彦さん、成田秀雄さん
 ・加藤紋次郎さん、

【6.1】新潟北RCへ

・小越憲泰さん

【6.2】三條北RCへ

・佐野勝榮さん



ショウブ

会長エレクト挨拶

菊池 渉 会長エレクト



ご挨拶申し上げます。今日最後の模擬例会をさせていただきます。いよいよ後一ヵ月かと思うと緊張致しております。

先般家内が娘と上野の興福寺仏像展を見てきて、阿修羅像が素晴らしかったと申します。私も数年前に奈良で見たのですが、上野ではぐるりと像を回れて、横の顔もよく見えたとのことでした。

アシュラはもともとインドの神話に出てくる神様の名前です。大変な場面のことを修羅場と申しますが、シュラはアシュラの「ア」が抜けた言葉で、同じ意味です。「ア」の字は大切な言葉なのですが、中国人は抜かすんですね。例えばアミダをミダというふうに。

アシュラにはひとり娘がいました。彼はその娘のことを大変かわいがり、大切に育てて参りました。その愛する娘が、きかん坊の神様・帝釈天に拐かされて妾にされてしまいました。怒ったアシュラは兵を率いて帝釈天に戦いを挑みます。

「娘をかえせ！」と手を振り上げた途端、帝釈天のお城から娘が飛び出てきて、「お父様止めて、私がかねてから帝釈天のことが好きだったのです。今は幸せなんです」と言うではありませんか。

娘の気持ちも分かるが、兵の手前、上げた手が降ろせない。「沽券にかかわる」というのでしょうか、そんな心、生き方を「アシュラ」というのです。



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ

皆さんは社会的に立場がおありになる。社長、会長と、おじいちゃん、お父さんと呼ばれている方々です。立場があればそれだけ「上げた手が降ろせない」ということであろうかと思えます。そんな時「俺はアシュラだ」と気が付いて頂ければ、それで十分。気が付けば興福寺の阿修羅像のように優しいお顔になれるのではないかと、思う次第です。

幹事報告

石月良典 幹事

◎再度ご案内致します。

三条ローターアクトクラブ主催、春のクリーン作戦が行われます。

とき 6月7日(日) AM6:30~

ところ トリムの森

※雨天決行、皆様のご協力をお願い致します。

◎馬場ガバナーより、6月もロータリーレート変更なしと連絡が来ております。 98円(現行)

ニコニコBOX

菊池 渉さん

本日、最後の練習例会させていただきます。来月からが思いやられます。

成田秀雄さん

今日、模擬例会です。よろしく願います。

阿部会員、卓話ご苦労様です。

阿部晃義さん

下手な卓話を聞いていただいて有難うございました。

斎藤弘文さん

①私こと、5月31日をもってシマト工業(株)の社長を退任致しました。

②遠来のお客様(コウ様)を心から歓迎申し上げます。

小越憲泰さん

斎藤弘文さん、シマト工業会長就任おめでとうございます。これからもご活躍ください。

洪様お久しぶりです。今晚お酒を飲みましょう。

小林敬典さん

昨日(6月2日)の田母神俊雄講演会の三条クラブの後援有難うございました。お陰様で資料消化1,350名の参加者でした。

小出子恵出さん

昨夜の講演に感動して。「誇れる日本」になってほしい。

小林さん、ありがとうございました。

会田二郎さん

捧会員、はざ木大変ありがとうございました。

阿部会員の卓話に感謝致します。

渡辺勝利さん

菊地会員宅で家庭会合お世話様でした。

台湾 洪様歓迎します。新竹ではお世話になりました。

荻根沢隆雄さん

洪様ようこそ!!

明田川賢一さん

阿部さん、卓話ご苦労様です。

又、今日は模擬例会です。成田さん、頑張ってください。

熊倉昌平さん、五十嵐昭一さん、高橋 司さん、杉山幸英さん、船越正夫さん、樺山 仁さん、石月良典さん、松永一義さん、若槻八十彦さん、米山智哉さん、丸山行彦さん

阿部晃義会員卓話ありがとうございました。

6月3日分 ￥ 29,000

今年度累計 ￥1,089,000

卓 話



阿部晃義 会員



スマイルボックスの激励の言葉を聞くとしゃべり難くなってきます。そこには4つのテストがありますがこれからお話する事は2、3、4はどうかと思うのですが1の真実かどうかには背かないように

話を進めたいと思います。

私は三条市生まれで中学を卒業すると直ぐ広島へまいりました。海上自衛隊生徒という職です。二中卒業式から数日後に三条を發ちました。私は子供の頃から船が好きだったのでその道を選ばせて頂きました。まず広島へ行きまして3ヶ月呉の教育大で生活致しました。

そこで歩き方から身体を鍛える事から手旗信号等基礎的な事を教育を受けました。手旗については15歳の柔軟な時に学んだ事ですので今でも打てます。

その基礎勉強3ヶ月後に江田島に行きました。ここは海軍兵学校のあった場所です。呉から距離では約6キロで、今ではフェリーで20分、高速船では10分足らずで行けるような島です。そこで第9期海上自衛隊生徒として私は入りました。同僚は120人で通信が80名、潜水艦ソナーが40名が学んだわけです。北海道から九州までの全国各地から集まった仲間達がいまいましたが新潟県は私一人でした。同期とは同じ釜の飯を食べた仲ですので今でも付き合いを持っています。そこでどんな生活を送ったかをお話してみたいと思います。

通信でしたので毎日モールス信号の受信・発信から通信機器の勉強ですが、私共は水上艦だけでなく潜水艦も航空機すべてに対応する訓練を受けました。船から航空機、潜水艦の構造から航海等運用勉強させて頂きました。

また、それだけでなく一番は身体を作る事でしたので水泳、これは海上自衛隊ですので水泳が基本でした。

三条にいた頃は五十嵐川で泳いでいましたし、自分では若干泳げるかなと思っていましたがここでは犬掻きに毛の生えた位にしかないレベルでした。ABCDと4つのクラスに分けられるのですが私は最下位のDクラスでした。

休みも無く毎日が練習でした。泳げる基準はプールで2キロで、ここに達しないと海に出してもらえませんでした。毎日練習してやっと海に出させて貰いました。

その位にしましたので今でも海の中では死ねない

と思う位に水に親しんでいます。

毎日6月から9月位迄は授業が終わる3時くらいになりますと江田島湾でキロ単位で泳いでいました。

年に1回幕営というのがありまして、ここは前の方が世界遺産になっています「安芸の宮島」の裏側にあたる無人の広い砂浜に上陸してテントを張り、約1週間毎日水泳の訓練がありました。やることは一日中ただ泳ぐだけ、あとは食事と寝るだけというそんな生活でした。

そしてその1週間の締めとして、10キロの遠泳をやるのですが、その海図上の10キロと言いましても、瀬戸内海は潮の満ち引きが大変激しくて、ひどい時は一時間泳いでも、逆潮の時は同じ場所にいるという位なんです。反対に追い潮の場合は倍位のスピードで進む時もあるわけです。そんな具合で、10キロを泳ぎきった時は浜に立ち上がれない程で、みんな這って上がっていました。

そういった訓練は、早く泳ぐとかではなく、とにかく、長い時間泳ぎ続けることが出来る為の訓練でした。船が沈んだ場合に、助けが来るまでとにかく泳ぎ続けられるようにする訓練でありました。片手1本、片足1本でも動かし続けていれば、なんとか浮いていられる、なんとか進める、そういった訓練でありました。

泳いでいる途中、飛び魚とぶつかったり、クラゲに囲まれたり、また上陸しようと下を見たら、一面に隙間なく真っ赤なヒトデが敷かれたようになっていた上を、恐る恐る歩いて上陸したこともありました。他には、カッターボートの訓練もよくやりました。訓練ですから、中途半端ではありません。一日の訓練が終わる頃には、尻の皮が剥けてしまいます。それでまた翌日の訓練でその皮がまた剥けてしまうというそんな厳しい訓練でした。それで訓練が終わると、仲間同士で相手の尻に赤チンを塗り合うという、そんな経験もいたしました。

私が江田島に行ったのは昭和38年、三八豪雪の年でした。まだその時代には、いわゆる旧海軍の出身者の方々が多くおられました。そういった方々が教官として、私たちに剣道、柔道、銃剣道などの教科を教えてくださいました。その教官たちは、身のこなしが凛としていて、格好良かったことを今でもよく覚えております。

まあ、そんな訓練の毎日でしたが、楽しみもありました。江田島には古鷹山という山がありまして、一面みかん畑になっていました。で、秋になると山が黄色に色付きます。休みの日になると仲間と一緒に登山するわけですが、その当時は大らかな時代で

したので、山を登りながらみかんをポケットに詰め込み、頂上で食べるというそんなことをやっていましたが、島の人たちは何ひとつ文句も言わない、優しく見守っていただいていたという、そんな時代でした。他には、うさぎ狩りをやったりもしました。

訓練の中でも一番大事な訓練に、「乗艦実習」という訓練があります。訓練船で、主に瀬戸内海で行いましたが、小さな島がいっぱいあって、それと潮の満ち引きが激しい海ですが、夕方になると鏡のようにきらきらと輝いて、島々の間を船がゆっくりと進んでゆくその景色は、とても心が癒されましたし、私の大好きな風景でした。

まだ訓練生ですから、そんなに遠くは行きませんでした。四国、それから神戸、いわゆる内海の航行

訓練が中心でした。

当時の仲間たちは、その後、南極に行ったり、潜水艦や掃海艇の艦長になったり、いろんな活躍をしていましたが、今はそれぞれ定年退職をして「陸に上がったカッパ」のようなそんな感じのようであり

ます。思い出の写真や、品物などを大事にとっておいたのですが、7・13水害でほとんど流されてしまいました。ですから、今お話したことはすべて、私の記憶の中から思い出しながらお話をしているわけ

あります。今日は、私の昔の思い出をお話させていただきました。どうもありがとうございました。

次週例会 6月17日 外部卓話 「元気な人には訳がある No.3」
ガレージ1
エアロビクスインストラクター 水科江利子 様

次々週例会 6月24日 夜例会 「会長・幹事慰労会」
PM6:30～ 於 二洲楼

